

平成28年度八王子市立中学校使用教科用図書調査研究報告書（選定資料作成委員会）

種目 国語(国語) (1/1枚目)
 国語(書写)部会 部長(枝村 晶子)

調査の観点	発行者名	東京書籍	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書
1 内容 (1)発達段階に即している (2)興味・関心を引き出す配慮 (3)本市の学力の実態へ配慮		(1)指導事項が明確で、発達段階に即している。 (2)「四季を楽しむ言葉」やゲーム仕立ての学習教材など、生徒の関心を引き出す工夫をしている。 (3)本市の生徒の実態に対応している。	(1)指導事項が明確で、発達段階に即している。 (2)「学びの窓」は、ワークシート形式で取り組みやすく生徒の関心を引き出す工夫をしている。 (3)分量が多いこと、中学校で学ぶ範囲を超えた発展的な教材はやや高度である。	(1)指導事項が明確で、発達段階に即している。 (2)「読み方を学ぼう」でポイントがまとめられるなど、理解しやすく関心をもたせる工夫をしている。 (3)本市の生徒の実態に対応している。	(1)指導事項が明確で、発達段階に即している。 (2)「言葉の小窓」や「四季のたより」など、言葉に関心をもたせる工夫がなされている。 (3)本市の生徒の実態に対応している。	(1)指導事項が明確で、発達段階に即している。 (2)「季節のしおり」や「色いろの言葉」など、言葉に興味をもたせる工夫がなされている。 (3)本市の学力の実態に対応している。
2 構成及び分量 (1)内容の組織配列、発展的記述 (2)発達段階に配慮した分量 (3)基本事項の押さえと補充教材 (4)発展教材への配慮		(1)7つの単元から構成されている。 (2)B5版本編約230ページ、基礎編約30ページ、資料編約50ページである。 (3)本編で基本事項が押さえられる。基礎編で補充が行える。教科書の使い方が示されている。 (4)資料編の読み物は、発展教材として読み比べられる。	(1)5つの単元から構成されている。 (2)B5版本編約280ページ、巻末資料編約50ページである。 (3)手引きの構成が「導入・展開・まとめ」の三段階であり、付けたい力が明確である。「学びの窓」で学習の振り返りができる。 (4)本編に選択の形で発展教材が載っている。巻末には古典文法も掲載されている。	(1)7つの単元から構成されている。 (2)B5版本編約220ページ、資料編約90ページである。 (3)本編で基礎事項が明確に理解でき、資料編で補充が行える。「学びの道しるべ」に基本事項となる目標とチェック欄がある。 (4)資料編の読み物は、発展教材として本編と読み比べられる。	(1)1・2年が8つ、3年が7つの単元から構成されている。 (2)B5版本編約230ページ、資料編は、言葉と文法・漢字約50ページ、「言葉の自習室」約50ページである。 (3)本編で基礎事項がおさえられ、資料編に補充教材がある。 (4)本編で基礎事項がおさえられ、資料に補充教材がある。巻末の「言葉の自習室」では物語文が多く扱われている。	(1)7つの単元から構成されている。 (2)B5版本編約210ページ、文法と漢字約20ページ、「学習を広げる」約70ページである。 (3)本編で基礎事項が押さえられ、資料編に補充教材がある。 (4)「学習を広げる」では、本文に関連した発展教材を扱っている。本編と読み比べられる。
3 表記及び表現 (1)生徒にとって読みやすい表現 (2)印刷、写真等の見やすさ		(1)見出しや項目はゴシック体で表記され、未習や難読の漢字にはルビがふられている。 (2)印刷が鮮明であり、写真や絵の色遣いが鮮やかで見やすい。	(1)見出しや項目はゴシック体で表記され、未習や難読の漢字にはルビがふられている。 (2)文字がやや小さく、写真や挿絵は少ないが、色鮮やかである。	(1)見出しや項目はゴシック体で表記され、未習や難読の漢字にはルビがふられている。 (2)印刷が鮮明であり、写真や絵の色遣いが鮮やかで見やすい。	(1)見出しや項目はゴシック体で表記され、未習や難読の漢字にはルビがふられている。 (2)印刷が鮮明であり、写真や絵の色遣いが鮮やかで見やすい。	(1)見出しや項目はゴシック体で表記され、未習や難読の漢字にはルビがふられている。 (2)印刷が鮮明であり、写真や絵の色遣いが鮮やかで見やすい。
4 使用上の便宜 (1)全体の構成が見渡せるよう配慮 (2)課題発見、解決に向けた学習が効果的に進められる配慮 (3)印刷、装丁への配慮 (4)地域性への配慮		(1)「領域別目次」がある。学習目標と身に付けたい言葉の力が示されている。 (2)教材のあとの「てびき」には基本的課題と発展的課題が示されている。 (3)古典の本編に折込みページがある。 (4)特筆すべき点はない。	(1)「領域別目次」はなく、各単元の扉に目標が示されている。 (2)教材のあとの「学びの窓」に段階を追った課題が示されている。 (3)巻末に口語・文語文法対照表の折込み資料がある。 (4)特筆すべき点はない。	(1)「領域別目次」がある。学習目標が示されている。 (2)「学びの道しるべ」に基本的課題と発展的課題が示されている。 (3)古典の本編と巻末に文章の読み方の折込みページがある。 (4)特筆すべき点はない。	(1)「領域別目次」がある。学習目標が示されている。 (2)「みちしるべ」に基本的課題と発展的課題が示されている。 (3)巻末に名言や古典の折込み資料がある。 (4)特筆すべき点はない。	(1)「領域別目次」がある。学習目標が示されている。 (2)教材のあとの「学習」に課題と教材に関連することが具体的に示されている。 (3)折込みが古典や文章の読み方の資料としてある。 (4)特筆すべき点はない。
5 重点調査項目 (1)話すこと・聞くことの教材について		・各学年「話す」「聞く」「話し合う」の3本立てである。 ・スピーチ、プレゼンテーション、チャート式討論など系統別の学習ができる。	・各学年「話す・聞く」が2単元ずつ用意されているが、全体的な量は少ない。 ・紹介、インタビュー、パブリックスピーキング、メディアリテラシー学習など取り上げられていて工夫されている。	・各学年「話す・聞く」の1本立てである。 ・グループ新聞、ワールドカフェなど他の教科書にはあまり見られない教材がある。	・各学年、「聞く」「話す」「話し合う」が4単元ずつ用意されている。 ・さまざまな課題を追究し、解決するための「対話力」の向上を重視している。 ・グループ討論、課題解決の話し合い、対話力の指導が記載されている。	・各学年3単元ずつ、「練習」が2回ずつ用意されている。 ・習得から活用という学習の流れができるよう工夫されている。 ・話し合い、討論、会議等系統的な学習ができるようになっている。
(2)読み物教材(古典を含む)について		読み物教材の種別 文学：1年＝小説3 他1 詩歌3 2年＝小説2 他2 詩歌3 3年＝小説3 他1 詩歌4 説明文：1年＝4 2年＝4 3年＝5 古典：1年＝古文2 解説1 漢文1 2年＝古文2 漢文1 3年＝古文2 漢文1 ・外国文学2編である。 ・読書教材は各学年近代文学・小説・ノンフィクション各1の3編である。 ・古典の導入は猫が描かれた古典作品である。「伊曾保物語」を掲載している。 ・説明文は「言語感覚」「構成と展開」「吟味判断」「言葉とメディア」の視点で掲載している。 ・メディアの役割やメディア論は、比べ読みができる教材を掲載している。 ・文学作品は定番の名作と現代小説を掲載している。	読み物教材の種別 文学：1年＝小説7 他5 詩歌6 2年＝小説8 他5 詩歌9 3年＝小説8 他3 詩歌7 説明文：1年＝4 2年＝4 3年＝5 古典：1年＝古文2 解説2 漢文1 2年＝古文2 解説2 漢文1 3年＝古文3 解説2 漢文1 ・外国文学9編である。各学年選択教材は4編である。 ・読書教材は各学年近代小説・詩・評論等を掲載している。 ・古典の導入は「徒然草」の解説である。1年「宇治拾遺物語」2年「猫また」3年「枕草子(香炉峰の雪)」も掲載している。発展として古語・古典文法の学習がある。 ・説明文は文章がやや難しい。随想が多く、説明文の数は他社と変わりはない。 ・文学作品は定番の名作と現代小説を掲載している。	読み物教材の種別 文学：1年＝小説4 他1 詩歌2 2年＝小説3 他1 詩歌3 3年＝小説4 他1 詩歌3 説明文：1年＝4 2年＝5 3年＝4 古典：1年＝古文3 解説1 漢文1 2年＝古文1 解説3 漢文1 3年＝古文2 解説1 漢文1 ・外国文学各学年1編である。 ・上記の中に読書教材を各学年1編ずつ含む。 ・古典の導入は「月を思う心」として複数の古典を紹介している。落語・歌舞伎・能狂言の資料が豊富である。「竹取物語」の古文の文章量が少ない。 ・説明文は講演録・談話など多様な文種が掲載されている。学年があがるごとに評論や論説など論理的文章を多くしている。 ・文学作品は定番の名作と現代小説を掲載している。	読み物教材の種別 文学：1年＝小説2 他1 詩歌4 2年＝小説3 詩歌3 3年＝小説4 他1 詩歌4 説明文：1年＝5 2年＝4 3年＝4 古典：1年＝古文1 解説1 漢文1 2年＝古文2 解説1 3年＝古文2 漢文1 ・外国文学2編である。 ・読書メディア教材として各学年3編ずつ(内近代文学1編)を掲載している。 ・古典の導入は「川柳」「膝栗毛」である。「奥の細道(立石寺・辞世の句)」があり発展的である。巻末に百人一首一覧を掲載している。 ・説明文は歴史や文化を考える題材が多く、比べ読みができる。評論、論説など論理的文章が多い。 ・文学作品は定番の名作と現代小説を掲載している。	読み物教材の種別 文学：1年＝小説4 詩歌4 2年＝小説4 他2 詩歌4 3年＝小説3 詩歌5 説明文：1年＝5 2年＝4 3年＝5 古典：1年＝古文1 解説音読2 漢文1 2年＝古文3 解説音読2(漢文1) 3年＝古文2 解説音読3(漢文1) ・外国文学各学年1編ずつである。 ・読書教材としてノンフィクションと小説(内近代文学1編)を各学年1編ずつ掲載している。 ・古典の導入は「月に思う」(百人一首)である。「古典の名作」の資料を掲載している。 ・説明文は科学的文章を中心に、震災関連も掲載している。各学年に動物を題材にした科学的文章がある。説明文は学年があがるごとに評論や論説など論理的文章を多くしている。 ・文学作品は定番の名作と現代小説を掲載している。
(3)書くことの教材について		・1・2年にそれぞれ6つ、3年に4つあり、大きな柱を立てて多くの分野を取り上げている「学習の流れ」があり、学習内容が明確になっている。 ・「基礎編」「資料編」に関連資料がある。	・各学年2つずつある。「学習の見通しを持つ」とあり、学習の流れが明確である。 ・イラストや例が多く、手順が詳しい。	・1年に5つ、2年に4つ、3年に3つあり、内容は多様で段階を踏んだものとなっている。 ・「学習の流れ」や「ポイント」があり、学習内容が明確である。 ・「資料編」に関連資料がある。	・各学年に5つずつある。「活動の流れ」「ポイント」があり、学習内容が明確である。多くの分野を取り上げ、3年では自己PR文がある。「資料編」に関連資料がある。	1・2年に5つ、3年に3つある。「活動の流れ」や学習の「ポイント」があり、学習内容が明確である。多くの分野を取り上げ、また、単独単元以外にも、「書くこと」の課題が本文の内容に関連させた形で各学年に6～7つある。「資料編」に関連資料がある。
(4)読書指導 (「読書のまち八王子」に関連して)		・単元ごとに数冊の図書の紹介があり、発展的な読書への準備がされている。また、読書案内がある。解説の他に、冒頭文や読ませたいワンフレーズを載せている。各学年50冊弱の紹介がある。	・単元ごとに2～3冊ずつ解説はないが関連した本の紹介がある。また、資料としての読書案内に、各学年10冊弱の図書が紹介され、解説も記載されている。 ・日本文学の流れが示されている資料があり、読書活動の指導に活用できる。	・単元ごとに3～4冊ずつ解説はないが関連した本の紹介がある。また、資料にある「読書の広場」は、各学年、くらし、科学など6つのジャンル別で解説付きの本の紹介があり、多様な読書活動に生かすことができる。 ・各学年80冊弱の本を紹介している。	・単元ごとに読書の紹介がある。単元との関連が示された本の解説が記載されており、生徒が自分から興味・関心をもてる内容になっている。 ・本の世界への資料があり、各学年約80冊の本を紹介している。	・単元ごとに関連した本が、解説はないが1～2冊紹介されている。 ・宇宙・職業など10のジャンル別の読書案内があり、多様な読書活動に生かすことができる。 ・各学年80冊弱である。